

# 梅雨期の大雨と台風 並びに高温に備える 農作物等の対策

## 農業技術情報（第1号）

大阪管区气象台による「近畿地方1か月予報」（令和元年6月6日発表）によると、日本海側では平年に比べ曇りや雨の日が少ないが、太平洋側では平年と同様に曇りや雨の日が多いと予報されています。また、平均気温は平年並か高いと予報されています。さらに、「近畿地方3か月予報」によると、7月は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予報されています。

一方、新たに台風が発生した場合には京都府への影響も心配されることから、今後の気象情報には注意が必要です。

については、以下の事項を参考に、農作物の適切な管理と高温時の作業者の健康管理を呼びかけてください。

### 1 水稻

- (1) 台風の接近前に、あらかじめ、排水路、ほ場内の排水溝等の点検及び補修整備を行う。
- (2) 台風通過後は、排水路の浮遊物や泥を除去し、速やかな排水に努め、できるだけ葉を水面に出すようする。
- (3) 生育前半が高温傾向で推移した場合には、稲の生育が旺盛となり、過剰分けつや籾数過多を招き、乳白粒等を増加させる事例が見られることから、適正な基肥の施用、栽植密度の調整、中干しの徹底等により茎数・籾数の適正化に努める。
- (4) 水田冠水後に黄化萎縮病の発生が懸念されるが、対象薬剤が1剤で収穫90日前までのため、常発地では栽培初期の薬剤散布を検討する。

### 2 豆類

- (1) 浸水、冠水した場合には、速やかにほ場の排水に努め、土壌の乾燥を促す。
- (2) 水が引いた後は、病害の発生を防ぐため、殺菌剤による防除を行う。
- (3) 生育初期に湿害を受けた場合は、湿害の程度に応じて再播種を行い、被害の軽減に努める。なお、晩播は生育量が低下するので、播種量を増やすなどの対策により、生育量の確保に努める。

### 3 野菜・花き

#### (1) 長雨・寡照対策

- ①滞水しないように、ほ場の排水に努める。
- ②葉面散布等による追肥を行う等、適正な栽培管理に努め、草勢の回復を促進する。
- ③施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行う。また、日照不足による軟弱徒長を防ぐため、過度の施肥を避けるとともに、曇雨天が続いた後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

#### (2) 台風通過前

- ①ハウス栽培では、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材破損部を補強し、しっかりと閉めきる。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。
- ②露地栽培では、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期の場合は、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

#### (3) 台風通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③風雨による傷から病原菌が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除を行う。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。

### 4 果樹

#### (1) 長雨・寡照対策

園内の排水対策を徹底する。

曇天が続くと日照不足になるので、枝の混み合った園では新梢管理等により園内の光環境を改善する。

#### (2) 台風通過前

- ①防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。  
果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。  
ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ②徒長枝等はできるだけ整理して風通しを良くしておく。
- ③排水対策（明きよ等）をしっかりと行っておく。

#### (3) 台風通過後

- ①骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ②冠水した場合は、速やかな排水に努める。
- ③ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、殺菌剤を散布する。

## 5 茶

- (1) 気温が高い時期にはカンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマなどの害虫の被害が大きくなりやすいため、発生初期に、的確に防除する。
- (2) 台風通過前
  - ①新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
  - ②傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。
  - ③被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているかを確認する。
  - ④挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
  - ⑤製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。
- (3) 台風通過後
  - ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに、漂着物を除去する。
  - ②強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
  - ③土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。

## 6 作業者の熱中症を防ぐ対策

### 〈作業環境面〉

- (1) 日除けや通風をよくする設備を設置し、作業中は適宜散水する。
- (2) スポーツドリンク等でこまめに水分と塩分を補給するとともに、身体を適度に冷やすことができる氷、冷たいおしぼり等を備える。
- (3) 作業中の温湿度の変化がわかるよう、温度計、湿度計等を設置する。
- (4) 日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保する。

### 〈作業面〉

- (1) 十分な休憩時間や作業休止時間を確保する。
- (2) 作業服は透湿性、通気性の良いものを、帽子は通気性の良いものを着用する。
- (3) 作業が辛いときは無理をせずに日陰の涼しいところで休憩し、水分を補給して、身体を冷やす。

### 〈健康面〉

- (1) 健康診断結果などにより、健康状態をあらかじめ把握しておく。

(2) 作業開始前や、作業中に作業員間で健康状態を観察する。

〈救急措置〉

(1) 近くの病院や診療所の場所を確認しておく。

(2) 熱中症は、早期の措置が大切であり、少しでも異常が見られたら下記の手当を行う。

- ・ 涼しいところで安静にする。
- ・ 水やスポーツドリンクで水分を摂る。
- ・ 体温が高いときは、裸体に近い状態にし、冷水をかけながら扇風機等で風をあてる。  
また、首、脇の下、足の付け根など太い血管のある部分を氷等で冷やす。
- ・ 回復しない場合及び症状が重い場合等は、速やかに医師の手当を受ける。